

エンジニアパーク

Engineer Ring Park

先日 40 代最後の誕生日を迎え、また、今回エンジニアパークへ投稿する機会もいただいたことから、自分の技術者人生を振り返ってみると、いくつかの転機があったことに、気付きました。

【転機①：大学時】私の専門分野が土質となった理由は、恥ずかしながら、大学 3 年時に土質力学講座の試験を寝坊で欠席したことで落第し、必須単位であったことから、単位取得に有利と考え 4 年時に土質力学の担当教授の研究室に入ったことにあります。

【転機②：就職時】高校まで名古屋で過ごした私が、25 年以上も札幌に在住している理由は、大学卒業後に就職した建設コンサルタンツ会社の面接時に、『若い時は、全国どこでもかまいません！』と言ったからなのか、札幌支社に配属になったからです（10 年前に現在の所属会社に転職）。

【転機③：転職時】転職した理由は、いろいろな業務で出会った技術者の方々とみていると、自分が専門分野（土質）に特化した偏った技術者になっていると感じたからです。その時、『例えるならば、大病院の専門医でなく町医者のような何でもやる技術者になりたい』という気持ちが芽生え、決意しました。

【転機④：技術士取得】私が技術士を取得したいとハッキリ思ったのは、尊敬していた技術士の方に、『門田君は、無資格だから車の運転で例えると仮免許で業務をこなしている状態だね』と言われたことです。その後、一念発起し、4 回目ですべて取得することができました（現在、総監で苦戦中…）。

【現在・今後】現在、河川環境分野を専門としたコンサルに在籍しています。この会社は、環境や設計の専門技術者が多く在籍していることから、新しい知見が周りに溢れていて、日々新鮮です。今後は、これまでの転機が良かったと思える技術者人生となるように、自己研鑽に励んでいきたいです。

門田 浩志 (かどた ひろし)

●建設部門（土質及び基礎）

勤務先

株式会社エコテック



→次号は、桑田英樹さん（建設部門）

私は鉄鋼メーカーに勤めていますが、専門は土木技術です。入社後、製鉄土木プラントのエンジニアリングを 15 年間担当し、現在は建材商品（鋼管杭、鋼矢板など）の技術営業を担当しています。

仕事の関係で、建設コンサルタントの方との接点が多いのですが、初対面の方とお話する際に、私が営業職（技術屋ではなく）と思われることの多いことが気になっていました。そこで、名刺に記載できる土木分野の資格を取得しようと考えたことが、技術士を受験するきっかけでした。

話は変わりますが、私は出身地、勤務地が北海道ということもあり、雪が降り出すと週末のスキー場通いが始まります。スキーの指導員をしている関係で、講師としてスキー技術を指導する機会が多いのですが、この場合、生徒は大切な顧客となります。スキー人口の減少が叫ばれて久しい中、自分の技術を通して、多くの人にスキーの魅力を体験してもらい、ゲレンデに来ていただくことが我々指導員の重要な課題となっています。そのためには、自分自身の技術力（講師が下手だと話になりません）と指導力（生徒への師範力）の維持向上のための不断的努力が必要です。

このような自己研鑽と顧客に対する姿勢は、スキー指導員に限ったものではなく、一般の技術者にも共通するものと考え、私自身も技術士として日常的に意識するように心がけています。

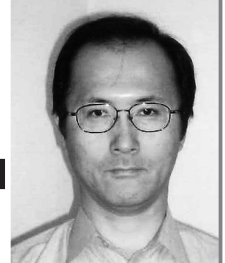
昨今、どこの部門でも技術の伝承が問題となっているようですが、当社でも喫緊の課題となっています。ですが、ここは焦らず、まずは、息子たちへのスキー技術の伝承について、雪が降り出すまでに考えなくては。

河原 俊哉 (かわはら としや)

●建設部門

勤務先

新日鐵住金株式会社 北海道支店



→次号は、田中信幸さん（建設部門）